

Makita®

NEWS

Volume176

販売店さんと
マキタを結ぶ情報誌

春号●2017

ZERO EMISSION



エンジンから充電へ

排ガスゼロ・燃料ゼロ始動の手間ゼロ & 低騒音

充電式工具でありながら、エンジン式に匹敵するパワーを有し
「排気ガスを出さない」「燃料を必要としない」「始動時の手間がない」
そして「圧倒的に低騒音」。それが環境との調和を目指すマキタの充電式工具です。

Lithium-ion Battery Series



充電式草刈機
MUR185UD



充電式チェーンソー
MUC353D



充電式ブロウ
MUB362D



充電式運搬車
CU180D

販売店さんこんにちは

工務店向けの勉強会を主催し、 地元のお客様と強固な関係を構築。 営業の組織化で対応力UPも図る!

高橋鉄平さん ● (株)高橋本社 (東京都墨田区)

東京23区の北東に位置する墨田区は、昔ながらの下町風情が色濃く残る一方で、世界一の高さを誇る634mの「東京スカイツリー」があることでも有名な特別区です。(株)高橋本社は、この地で大正12年(1923)に家庭用品の販売店として創業し、現在では建築金物や電動工具、住設資材などを扱う総合建築資材卸専門店へと成長。工務店向けの勉強会を主催するなど、地域との繋がりを第一に商売を続ける老舗企業です。



家庭用品販売から商売を始め 90年以上の歴史を持つ老舗

首都高速向島出口すぐの場所に社屋を構える(株)高橋本社は、大正12年(1923)に家庭用品の販売を始め、創業の地で90年以上にわたり事業を続ける老舗店です。昭和初期には建築金物に業容を広げ、その後も電動工具や住設資材など商材を拡大。昭和25年(1950)に(有)高橋商店を設立、昭和61年(1986)には(株)高橋本社に組織変更し、現在に至ります。

「当社のユニークな社名は、先代である父が、『インパクトがあるから』と命名したものです」と語る4代目の高橋鉄平社長。住設建材商社で5年ほど営業経験を積んだ後、27歳で実家に戻り入社。7年前から専務となり、2年前に先代が急逝したため、平成26年(2014)から社長を務めています。

現在の社員数は25名。本社では主に職人さん向けの金物関連商品を店頭で販売。一方、道路の向かいにある営業部では、工務店やゼネコン向けにキッチンやユニットバスなどの水回り関連の商材を販売しています。

店舗の営業時間は朝8時から夜6時30分まで。休みは土曜日午後と日曜・祝日。墨田区、台東区、江戸川区、江東区など東京23区の東側、いわゆる「城東地区」と呼ばれるエリアを商圈にビジネスを展開しています。

地元との繋がりを守りながら 2代目経営者との勉強会を主催

同社が大切にしているのは、地元密着の姿勢です。「地域の工務店さんや大工さんが元気になる取り組みを行うことが、私たちの付加価値を高めることになるはず」と高橋社長は話します。幼少時代に遊ん



▲目の前の通りを挟んで本社と営業部があります

でくれた常連のお客様が来店の際には、いまだに下の名前では呼ばれることも多いという高橋社長は、こうした親密な繋がりを今後も大切にしていきたいと力を込めて語ります。

同社では毎年4月に展示会を開催していますが、先代が亡くなった年には、過去最高の売上と来場者数を記録。「『親父さんには、本当に世話になったよ』と声を掛けてくださるお客様も多く、父が築いてきた信頼関係を改めて実感できました」と高橋社長。今後もこうしたお客様との関係を深め、ピス1本でも現場に配達する小回りの良さを武器に、商売を伸ばしていきたいと考えています。

地元との繋がりを象徴する取り組みの一つとして、「TNG会」があります。TNGは「高橋ネクストジェネレーション」の略で、同社と取引のある地元工務店の2代目経営者達との勉強会のこと。事業継承を支援する目的で先代が約20年前に立ち上げ、20社ほどが加入。2~3カ月に1度、ディスカッションや研修を行っています。今では何でも話せる仲となり、普段は競合相手の工務店同士でも、気軽に悩みを相談できる場になっています。

業務の仕組み化を加速させて 地域になくてはならない存在に

高橋社長就任以降、「営業の組織化」にも力を入れている同社。それまで社員の

マンパワーに依存していた営業と内勤事務作業を分業する為に、女性の営業事務を新たに採用しました。これにより営業に専念でき、より迅速な対応ができる仕組みを構築しました。「失敗したら戻せばいい。まずはチャレンジする姿勢が大切」と高橋社長。今後も「地域一番店」「お客様にとってなくてはならない金物屋」を目指し、業務の仕組み化をさらに加速させていく考えです。



▲一級建築士をはじめとしたプロたちが活躍

ちよつといい
“モノ”
語り

父も愛した
地元の祭りの
法被と提灯



当社が社屋を構える墨田区東向島には、隅田川七福神の寿老神として親しまれている「白髭神社」があります。毎年6月には例祭が行われ、御神輿が出るのですが、元々お祭りが大好きだった私の父は、この白髭神社の例祭で長く世話人を務めていました。そんな父の後を継ぎ、今では私が世話人として法被と名前入りの提灯を作り、地元の方々と一緒に祭りを盛り上げています。

お祭りの準備を通じて地元の方と知り合い、生前の父に関する話を耳にすることも多くあります。どんなに経営が厳しくても常に飄々としていて、大変さを表に見せなかった父ですが、皆さんの話を聞いて私の知らない一面を知ることもあります。これからも、父の記憶が刻まれたお祭りをお手伝いしながら、地元との絆を大切にしていきたいと思っています。